



テスト終わる

初めての考査が終わった。終わった後に校外行事説明会があった（しかも数学のプリントまで配られた…泣）ので、その場では「ヤッタ〜！」という雰囲気は今一つだったかも知れないが、でも、やはり大きな解放感を感じたに違いない。この解放感は、厳しい考査の日比谷ならではのものであろう。しかも、次の考査は夏休み開けだ。それまでは、思いっきりこの季節を楽しめる…

…などと能天気なことは言っていないのである！ 今日からもう答案の返却が始まるに違いない。返ってきた答案を見たら…と、この続きの恐怖？は今日から実際に体験してもらおうとしよう（笑）。

＊

で、今回の考査であるが、自分の予想通りの展開だっただろうか？（予想通り「悪かった」…というのではダメ！）ちゃんと考査範囲の勉強をし終えることができただろうか？ 副教材も範囲を全部こなすことができただろうか？ 勉強の過程で、授業で分からなかったところ分かるようになっただろうか？ ますます分からなくなってしまうなどということは無かっただろうか？

前に書いたとおり、結果を数字で表現すれば、1位から39位までということになり、そのインパクトが強いが故に、その背景にある「意味」を忘れてしまいがちだが、大切なことは、その数字に自分自身でどのような「意味」を読み取るかということなのである。十分に準備できずに試験に臨んだ結果なら、次

の期末考査の時にどれだけ時間をかければいいのか、ちゃんと考え直すべきだろう。逆に、しっかり準備したにもかかわらずいい点が取れなかったのなら、準備の仕方が不十分ではなかったのか、不得意な所を後回しにしていたのか、ヤッタ気になっていただけでしっかり理解していなかったのではないかなど、これまた次に向けてしっかり数字の「意味」を問い直してみたい。

＊

以前、「重要語にマーカーをつけると、それだけで勉強した気になってしまって、ちっとも頭の中に入っていない場合がある」というテレビ番組を見たことがある。4日月曜日のNHK教育テレビ「テストの花道」では、最終的に求めなければならないものは何なのかを考え（つまり模範解答を見て…）、それを求めるのに必要なことは？と、答えから遡る形で解法の過程をたどり、どう問題に取り組んだらいいのかを身につける「数学逆算法」が紹介されていた。

大切なことは、次に向けて、勉強法をいろいろ工夫することだ。前に書いたとおり、君たちの年ごろは「変わる（変える）」ことを恐れてはいけない。勉強法も、これが自分に向いていると決めつけず、色々な方法を試してみよう。さすがに3年生になると「試して」いる余裕はなくなる。できるのは今のうちだ。今回の経験を踏まえて、計画の立て方、各教科の勉強にかける時間、予習の仕方、ノートの取り方まで、いろいろ工夫してみよう。